

事業評価 (目的設定、中間評価、事後評価)

秋田県警察運営の基本方針と重点目標				
重点目標	交通事故防止のための総合的な取組			
施策の方向性	交通信号機の整備			
事業名	交通信号機整備事業	事業年度	S54	年度～ 年度
所属名	警察本部交通部交通規制課			
係名	規制第一係			

1 事業実施の背景及び目的

信号機は交通の円滑と安全に必要であるが、基本的な整備のほか、老朽化した機器による重大障害の発生や倒壊等の被害防止のため、計画的な更新が必要である。また、灯器のLED化による視認性の向上、交通安全施設のバリアフリー整備を推進して人にも車にも優しい交通環境を提供する。

2 事業概要及び財源

(単位：千円)

	事業内訳	概要	翌(今)年度 予算額	前年度 決算(見込)額	最終年度 決算(見込)額
1	交通信号機整備事業	交通信号機の整備、維持を行う。(交通信号機の新設、移設、改良、更新工事費等)	667,412	550,539	
2					
3					
4					
その他合計 ( 件)					
財政内訳	左の説明		667,412	550,539	
国庫補助金	警察施設整備費補助金		139,735	135,492	
県債			493,200	389,500	
その他					
一般財源			34,477	25,547	

3 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

【指標Ⅰ】

指標名	視認性向上のための信号灯器の更新【業績評価】									
指標式	灯器のLED化実績/当初予定の灯器のLED更新予定数									
出典	県警察本部調べ									
把握時期	当該年度中									
年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
目標 a	400	400	400	400	400	400	920	920	920	
実績 b	400	400	400	329	316	454				
b/a	100.0%	100.0%	100.0%	82.3%	79.0%	113.5%				

【指標Ⅱ】

指標名	老朽化した機器による重大障害の発生や倒壊等の被害防止【業績評価】									
指標式	制御器・信号柱の更新実績/当初予定の制御器・信号柱の更新数									
出典	県警察本部調べ									
把握時期	当該年度中									
年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
目標 a	230	230	230	230	230	230	230	230	230	
実績 b	230	230	230	195	215	221				
b/a	100.0%	100.0%	100.0%	84.8%	93.5%	96.1%				

◎指標を設定することができない場合の把握方法

①指標を設定することができない理由

--

②見込まれる効果及び具体的な把握方法（データの出典含む）

--

4 中間評価

(1) 必要性（現状の課題に照らした妥当性）

判定	a	理由	引き続き道路利用者に安全で快適な道路環境を提供するために、計画的な信号機の更新が必要である。
----	---	----	--

（判定基準） a：必要性が高い b：一定の必要性がある c：必要性が低い

(2) 有効性（事業目標の達成状況）

※指標設定ができない場合「b」判定以下とする。

※二つの指標を設定し、達成率100.0%未満の指標がある場合は、達成率の平均値により判定する。

判定	b	理由	入札不調、予算減少、人件費や必要物品に関する経費の増加等により、予定していた更新が100パーセントに達しないことがあった。
----	---	----	---

（判定基準） a：有効性が高い(達成率が100.0%以上) b：一定の有効性がある(a、c以外の場合) c：有効性が低い(達成率が80.0%未満)

(3) 効率性（限られた予算で効果を発揮するために努力した内容）

判定	a	理由	信号交差点における人身交通事故は、平成27年の209件に対して令和5年は164件と減少傾向である。交通渋滞の解消・緩和を図り、円滑な交通を確保するという点も適切に反映されていることから、経済性は妥当である。
----	---	----	---

（判定基準） a：効率性が高い b：一定の効率性がある c：効率性が低い

(4) 総合評価

判定	B	前回結果	B
----	---	------	---

【総合評価の判定基準】

「A」:「必要性」「有効性」「効率性」の観点全て「a」判定のもの

「B」:「A」「C」以外の判定のもの

「C」:「必要性」「有効性」「効率性」の観点全て「c」判定のもの

5 課題と今後の対応方針

(1) 事業推進上の課題

厳しい財政状況の中、旧来の電球式信号灯器について、メーカーが令和9年度で電球の生産中止を発表しており、その後は供給が止まることから信号灯器のLED化を優先して進める必要がある。
--

(2) 今後の対応方針

当該事業の継続に必要な予算の確保に努める。
-----------------------

## 6 事後評価

### (1) 有効性（事業目標の達成状況）

※指標設定ができない場合「b」判定以下とする。

※二つの指標を設定し、達成率100.0%未満の指標がある場合は、達成率の平均値により判定する。

判定	理由

(判定基準) a : 有効性が高い(達成率が100.0%以上) b : 一定の有効性がある(a、c以外の場合) c : 有効性が低い(達成率が80.0%未満)

### (2) 効率性（限られた予算で効果を発揮するために努力した内容）

判定	理由

(判定基準) a : 効率性が高い b : 一定の効率性がある c : 効率性が低い

### (3) 総合評価

判定

#### 【総合評価の判定基準】

「A」:「必要性」「有効性」「効率性」の観点全て「a」判定のもの

「B」:「A」「C」以外の判定のもの

「C」:「必要性」「有効性」「効率性」の観点全て「c」判定のもの

## 7 類似事業の企画立案に当たっての課題

--